



新国立劇場

2012年1月

新国立劇場 開場15周年

2012/2013シーズン

PLAY

演劇



| Contents |

演劇芸術監督 宮田慶子	2
2012/2013シーズン 演劇 ラインアップ	3
リチャード三世	4
[JAPAN MEETS… —現代劇の系譜をひもとく—] VII	
るつぼ 新訳上演	7
音のない世界で 新 作	10
長い墓標の列	13
With 一つながる演劇・ウェールズ編—	
「タイトル未定」 新 作	16
With 一つながる演劇・韓国編—	
アジア温泉(仮題) 新 作	19
With 一つながる演劇・ドイツ編—	
「タイトル未定」 新 作	22
象 再 演	25
公演一覧(1997.10～2012.6)	28



演劇芸術監督

宮田慶子

みやた・けいこ

世界、そして明日とつながる

2012/2013 シーズンは、待望のシェイクスピア作『リチャード三世』で幕をあけます。2009 年秋に三部同時上演で演劇界の話題をさらった『ヘンリー六世』に続き、前作で青年期の姿が明らかになった“異端のヒーロー”が、更に重厚な全貌をあらわします。

続いて 11 月は、3 年目となる「JAPAN MEETS…」シリーズの 7 作目『るつぽ』です。アメリカ演劇を代表する劇作家、アーサー・ミラーの作品が、新国立劇場に初めて登場します。人間の理性と本性の矛盾を、現実におこった魔女裁判を題材に、究極のドラマとして問いかけてくる作品です。

12 月～1 月の冬休み期間には、子供と大人が揃って楽しめる企画、長塚圭史作・演出『音のいない世界で』。魅力的な顔合わせによるユニークで斬新な舞台作りに期待が高まります。

3 月には、日本演劇界で今も精力的に新作を発表し続けている劇作家、福田善之氏の初期作品『長い墓標の列』です。第二次世界大戦下、学者としての良識や信念を守りつつ、時局の波に翻弄される教授と学生達の姿を描きます。新国立劇場演劇研修所出身の若き俳優達の活躍も注目です。

4～6 月は、シリーズ企画「With 一つながる演劇―」と題して、念願であった、ウェールズ、韓国、ドイツの作家、演出家達と組んだ、新作書き下ろしの三作品連続上演です。「JAPAN MEETS…」「美×劇」と展開してきたシリーズの 3 年目は、それぞれの国の伝統や独自性を再認識すると同時に、国を越えて共有する現代の課題と向き合いながら、次の時代の可能性を共に探ろうとする企画です。活動形態の異なる三か国の芸術監督が演出にあたる刺激的な出会いの場となります。

7 月は、2010 年に好評を頂いた『象』の再演です。広島の被爆者を題材としたこの舞台は、「3.11 以後」に生きる私達に、新たなメッセージを投げかけてくるに違いありません。

震災、原発事故、世界経済の不安定と、度重なる試練の中で、個の自覚の在り方と世界のつながりを考えない日はありません。演劇が、今現在を生きる人間を映し出す鏡であるならば、私達はそこに、ありのままの姿を晒し、隅々まで見極めながら、厳しい時代の中で、真摯に人間らしさを追いながら歩んでいく道を探していきたいと願っています。

〈プロフィール〉

1957 年生まれ、東京都出身。新国立劇場演劇部門、芸術監督。

80 年、劇団青年座（文芸部）に入団。83 年青年座スタジオ公演『ひとときといき』の作・演出でデビュー。

翻訳劇、近代古典、ストレートプレイ、ミュージカル、商業演劇、小劇場と多方面にわたる作品を手がける一方、演劇教育や日本各地での演劇振興・交流に積極的に取り組んでいる。

新国立劇場演劇研修所講師・サポート委員。社団法人日本劇団協議会常務理事、日本演出者協会副理事長。

主な受賞歴に、94 年第 29 回紀伊国屋演劇賞個人賞（『MOTHER』青年座）、97 年第 5 回読売演劇大賞優秀演出家賞（『フユヒコ』青年座）、98 年芸術選奨文部大臣新人賞（新国立劇場公演『ディア・ライアー』）、01 年第 43 回毎日芸術賞千田是也賞、第 9 回読売演劇大賞最優秀演出家賞（『赤シャツ』『悔しい女』青年座、『サラ』松竹）など。

上記以外の主な演出作品に、『ブンナよ、木からおりてこい』『妻と社長と九ちゃん』『千里眼の女』『をんな善哉』（青年座）、『愛は謎の変奏曲』『恋の三重奏』『ガブリエル・シャネル』（松竹）、『ノイズズオフ』『エレファントマン』『ベテン師と詐欺師』（ホリプロ）、『ふたたびの恋』『LOVE30』『Triangle Vol.1, Vol.2』（パルコ）、『伝説の女優』『ウェディング・ママ』（アトリエ・ダンカン）など。

新国立劇場では上記『ディア・ライアー』のほか、『かくて新年は』『美女で野獣』『屋上庭園』『ヘッダ・ガーブレル』『わが町』『おどくみ』を演出している。

2011/2012 シーズンは『朱雀家の滅亡』『負傷者 16 人 ―SIXTEEN WOUNDED―』、オペラ『沈黙』を演出。

2012/2013 シーズン 演劇ラインアップ

〈計8演目〉

2012.10

リチャード三世

作： ウィリアム・シェイクスピア

翻訳：小田島雄志

演出：鶴山 仁

2012.10-11

[JAPAN MEETS... ー現代劇の系譜をひもとくー] VII

るつぽ

作： アーサー・ミラー

翻訳：水谷八也

演出：宮田慶子

2012.12-2013.1

音のない世界で

作・演出：長塚圭史

振付： 近藤良平

2013.3

長い墓標の列

作： 福田善之

演出：宮田慶子

2013.4

With 一つながる演劇・ウェールズ編ー

新作「タイトル未定」

作： ギャリー・オーウェン

翻訳：長島 確

演出：ジョン・E・マグラ

2013.5

With 一つながる演劇・韓国編ー

アジア温泉 (仮題)

作： 鄭 義信

演出：孫 振策

2013.6

With 一つながる演劇・ドイツ編ー

新作「タイトル未定」

作： ローラント・シンメルズフェニヒ

翻訳：大塚 直

演出：宮田慶子

2013.7

象

作： 別役 実

演出：深津篤史

リチャード三世

Richard III

中劇場

●前売開始：2012年7月22日(日)

●料金 S：8,400円 A：5,250円 B：3,150円

作： ウィリアム・シェイクスピア

翻訳：小田島雄志

演出：鷗山 仁

出演：岡本健一 中嶋朋子 浦井健治 ほか

企画意図

シェイクスピアの処女戯曲『ヘンリー六世』、全三部作。通し上演に正味9時間かかるこの大作が中劇場で上演されたのが、2009年11月。内容の充実と規模の雄大さが評価され、演劇界を席卷したことも記憶に新しいところでは。

その続編『リチャード三世』は、イギリス本国は言うに及ばず、我が国でも単独で上演される人気演目で、これまでも綺羅星のごとく居並ぶ名優が演じてきた作品ですが、元々シェイクスピアは『ヘンリー六世』に続く作品として構想し、登場人物もほぼ同じで、ストーリーも連続しています。今回の上演では、『ヘンリー六世』の出演俳優が再集結し、そのまま同じ役を引き継いでの上演となります。

これは英国でもこれまで数例しかなく、日本では初の試みで、『ヘンリー六世』で描かれた王権を巡る濃密な人間関係がさらに深化し、より豊かな劇空間が展開されることでしょう。

作 品

30年にわたる薔薇戦争を勝ち抜き、王権を手にしたヨーク家のエドワード四世。だがその弟、グロスター公リチャードは密かに王位に就くことを画策。自分より優位な王位継承者を姦計によって次々と破滅へ追いやり、対立する貴族諸侯もことごとく処刑、腹心の貴族バッキンガム公を従え、ロンドン市民の賛同も得て、リチャード三世として即位する。

だが得意の絶頂も長くは続かず、造反した貴族たちが、ヘンリー五世の孫にあたりフランスに亡命していたリッチモンド伯ヘンリー・チューダーのもとに集結し、反旗を翻す。

反乱軍を率いて上陸したリッチモンドと、王リチャードはイングランド中部レスターシャーのボズワースの平原において激しい戦闘を繰り広げ、一騎打ちの末リチャードは壮絶な最期を迎える。

演出家からのメッセージ

鷗山 仁

そして、『リチャード三世』

薔薇戦争を扱った連作でシェイクスピアが描いたのは、王冠を巡る戦い、男と女の戦い、つまるところ「生」と「死」の戦いだったのではないのでしょうか。そこでは強者と弱者、被害者と加害者、勝者と敗者が一瞬にして入れかわる。そんな有為転変も、無情な時の流れの中では、当たり前¹の出来事なのかもしれません。

血と夢にまみれた戦いの帰結として、リチャード三世という異形が結晶しました。まがまがしくも美しいそのアイロニーと、母として、また妻として、それぞれ愛憎の結晶を孕み、生み育てる宿命を背負った女達の凄絶な姿、それがこの作品の基盤だと思います。

舞台の上には、生きとし生けるものにとって究極のゴールである「死」に抗い、束の間の生の時間に命を賭した人間達の姿、幾世代にもわたる格闘のうねりが立ち上がればと、かなり大きな期待をかけています。

『ヘンリー六世』以来のキャスト・スタッフに新しいメンバーが加わり、劇を離陸させる準備は着々と進行中。稽古の開始を、そして初日の幕が上がる日を、今から心待ちにしています。

リチャード三世

鵜山 仁

Uyama Hitoshi

舞台芸術学院、文学座附属研究所を経て、1981年、文学座座員に。83年から1年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在。毎日芸術賞千田是也賞、紀伊國屋演劇賞個人賞など、受賞多数。最近の演出作品に『炎の人』『山羊…それって…もしかして…シルヴィア?』『欲望という名の電車』など。新国立劇場では、『リア王』『新・雨月物語』『新・地獄変』『コペンハーゲン』『花咲く港』『カエル』『アルゴス坂の白い家』『オットーと呼ばれる日本人』『舞台は夢』『現代能楽集 鵜』『イロアセル』、オペラ『カルメン』『鹿鳴館』を演出。2009年『ヘンリー六世』の演出で芸術選奨文部科学大臣賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞などを受賞。07年9月より10年8月まで新国立劇場演劇部門芸術監督。



ウィリアム・シェイクスピア

William Shakespeare

イギリス、エリザベス朝の劇作家、詩人。1564年～1616年。

生涯に37本を超える劇作を残し、死後出版された全集ではその作品が歴史劇、悲劇、喜劇に分類された。そのうち歴史劇は10本を数え、イギリスの王権史に題材をとった『ジョン王』『リチャード二世』『ヘンリー四世』第一部、第二部、『ヘンリー五世』『ヘンリー六世』第一部、第二部、第三部、『リチャード三世』『ヘンリー八世』がある。執筆された順から『ヘンリー六世』三部作と『リチャード三世』を「第一四部作」と呼ぶこともある。

37本の作品群は21世紀の今日に至るまで、本国イギリスは言うに及ばず全世界で上演され続けている。我が国でも、明治期に翻案作品が紹介されて以来さまざまな形で上演され、歌舞伎から小劇場の公演まで広範囲に影響を与えている。

るつぽ

新訳上演
New Translation

The Crucible

小劇場

●前売開始：2012年9月2日(日)

●料金 A：5,250円 B：3,150円

作：アーサー・ミラー

翻訳：水谷八也

演出：宮田慶子

出演：池内博之 鈴木 杏

佐々木愛 磯部 勉 瀬下和久 関 時男

田中利花 檀 臣幸 浅野雅博 栗田桃子 ほか

企画意図

宮田慶子が芸術監督就任以来、企画、上演し続けている「JAPAN MEETS… —現代劇の系譜をひもとく—」シリーズの第7作目として取り上げるのは、アーサー・ミラーによる『るつぽ』。1953年に初演された本作は、17世紀末に実際に起きたセイラムの魔女裁判に取材しながら、1950年代当時のアメリカの赤狩りやマッカーシズムを痛烈に批判し、社会現象ともなった問題作です。また2001年の9・11同時多発テロ以降のアメリカ国内の動きを批判して再演され、本国アメリカでは大きな話題となりました。

社会における弱者と強者、群集心理によるパニック状態、そして一人の男がたった一人の少女に翻弄されていく姿を描き、トニー賞も受賞しました。宮田慶子自らが演劇研修所の試演会でも取り上げた作品を、『わが町』でもタグを組み大きな評価を得た水谷八也が新たに翻訳、さらに深淵まで踏み込んで、再び挑みます。

作 品

1692年、マサチューセッツ州セイラム。

春。牧師のバリスが深夜の森でアビゲイルら少女たちが全裸で踊っているのを発見したことを発端に、悪魔払いのヘイル牧師がかけつけるなど町は大騒ぎ。さらにパトナム家と町の老人・ジャイルズとの抗争、アビゲイルと農夫ジョン・プロクターとの不倫関係などが絡み合い、窮地に追い込まれた少女たちは町の人々を魔女として告発し始める。

セイラムでは無実の人々が次々と逮捕、処刑されている一方で、アビゲイルらは聖女として扱われている。プロクターは、魔女告発者の一人である下女の言動から、アビゲイルたちの陰謀に気づくが、時すでに遅く、とうとう妻・エリザベスが拘束されてしまう。プロクターらは、ヘイル牧師の協力でダンフォース判事に妻の赦免を願い出、アビゲイルと対決することに。だが、言い争ううちにアビゲイルは「悪魔がいる」と言いだして人々を扇動、プロクターも拘束されてしまう。

季節は秋から冬へ。魔女裁判に疑問を感じ始めた人々が現れる中、アビゲイルは身の危険を感じ失踪してしまう。ダンフォース判事は、裁判の正当性と保身のため、プロクターに処刑を中止する代償として、一旦は「魔女」であることを告白するよう提言する。悩むプロクターは、家族への愛を断ち切ることができず偽りの告白をする。仲間を裏切ったという良心の呵責に耐えかね、自ら朝日に輝く処刑台へと上って行く。

翻訳家からのメッセージ

水谷八也

アーサー・ミラーの『るつぽ』(1953)は、1950年代前半のアメリカを席卷したマッカーシズムを描いたものとして知られている。しかし、『るつぽ』は20世紀の政治状況を17世紀末のアメリカで起こった魔女裁判に重ねただけではなく、異なる時代の二つの事象を重ねることで、その熱狂の根底に横たわる人間の本質を明らかにしている。それは「線を引く」こと。こちらとあちらを分けること。それは、こちらとは異なるあちらを作り出し、自分(たち)とは異質の他者を生み出す行為に他ならない。こちらの正当性を証し、同質のこちら側の結束を堅固なものにして安寧を得るために、「排除」は不可欠となり、やがて単なる区別は差別へと容易に転化していく。まるで己の外側、向こう側に「敵=悪」という他者を作ることが、唯一説得力を持つ存在証明の方法であるかのように。『るつぽ』は、17世紀から20世紀半ばを貫き、今世紀にまで連なる己の「在り方」をめぐる戯曲として、今日でも力強く、私たちに問いかけを迫ってくる。そして、己の中の「他者」を強く意識させるのだ。翻訳者として、そんな『るつぽ』観を演出家、役者にぶつけてみたいと思っている。

演出家からのメッセージ

宮田慶子

『るつぽ』の原題『The Crucible』には、多種多様なエネルギーが集まり、濃度が高い状態で混ざり合う“渦”のような「^{るつぽ}坩堝」の意味と同時に、「過酷で厳しい試練」という定義があります。1692年に北米のマサチューセッツ州セイラムで実際におこった魔女裁判を題材に書かれたこの戯曲は、まさに、信仰、集団、夫婦、規律、自由、尊厳、そしてそれらにまつわる人間の弱さや愚かさ、虚栄心や執念や嫉妬や裏切りというあらゆる人間ドラマを混沌とした「るつぽ」として描いています。徹底した禁欲主義の戒律を持つピューリタンの事件を扱いながら、登場人物ひとりひとりにまったく別の視点を負わせ、多面的に展開するドラマは、だからこそ普遍的な説得力と魅力を持っていると言えます。ひとつひとつをひもときながら、まるでパズルが組み合うように追い込まれていく状況を作り上げたいと思います。立場や価値観の多様性の中で生きる私達にとって、それを認めることと、認めることによって生じる矛盾とを、どう整理し決着させていく未来を描けばいいのか……そんな事を考えながら、演出の思いを巡らせています。

るつぽ

アーサー・ミラー

Arthur Miller

アメリカの劇作家・エッセイスト。1915年 - 2005年。

ミシガン大学在学中にラジオドラマの脚本を皮切りに劇作活動をスタート、1944年『幸運な男』でブロードウェイに進出。47年『みんな我が子』がヒットし躍注目を浴びる。49年『セールスマンの死』でトニー賞、ピューリッツァー賞を受賞。劇作家としての地位を確立し、テネシー・ウィリアムズとともにアメリカ現代演劇の旗手となった。その他、代表作に55年の『橋からのながめ』、68年の『代価』など。

ミラーは、社会と個人の接点からドラマを構築し、社会の矛盾を風刺し、近代化による人間疎外を批判した。映画化された作品も多い。日本でも、作品は数多く繰り返し上演され、大きな共感を呼び起こした。また演劇の他、様々な分野に進出し、映画の脚本や小説、評論も手掛け、65年から69年まで国際ペンクラブの会長を務めた。2004年にシカゴで上演した『フィニッシング・ザ・ピクチャー』が最後の作品となった。



水谷八也

Mizutani Hachiya

1953年生まれ。学習院大学大学院人文科学研究科修了。現在、早稲田大学文化構想学部教授(文芸・ジャーナリズム論系)。翻訳書にゾラ・ワイルダーの『危機一髪』『結婚仲介人』、アリエル・ドーファンの『谷間の女たち』『世界で最も乾いた土地』、など。新国立劇場ではドーファンの『THE OTHER SIDE / 線のもう側』、ワイルダーの『わが町』の翻訳を手掛けている。

宮田慶子

Miyata Keiko

P2参照。



音のいない世界で

2012.12-2013.1

新作
New Play

Otono Inai Sekaide

小劇場

●前売開始：2012年10月20日(土)

●料金 大人 A：5,250円 B：3,150円

こども A：2,600円 B：1,500円

作・演出：長塚圭史

振付： 近藤良平

出演： 近藤良平 首藤康之 長塚圭史 松たか子(五十音順)

企画意図

新国立劇場では、この劇場なればこそその作品をと、作・演出の長塚圭史と数年に渡り話し合いを重ね、可能性を探り続けてきました。今回の企画では、多彩な人材を結集し、出演者同士が1年ほど時間をかけてワークショップや話し合いを積み重ね、演劇、ダンス、音楽を軸に作品を創りあげます。

クリスマス直前に開幕し、多くの子どもたちに、そして、彼らの親や大人たちと幅広い客層の方々に直接体験してほしい作品です。

子どもたちや青少年たちにも楽しんでもらえる劇場空間で、みなさまをお迎えしたいと考えています。

作品

クリスマス・イブ。

大切なカバンを盗まれてしまったショックで「音」を失ってしまった貧しいセイ。

「音」を失ってしまったセイには、愛する夫の声を聞くことも、

自分で声を発することも出来なくなってしまう。

カバンを取り戻そうとひとり旅に出るセイ。

カバンを盗んだ男の足跡を追って、

四つの季節を旅するセイ。

セイがいなくなってしまったショックで、

夫もまた「音」を失ってしまう。

夫はセイを追って旅に出る。

セイの歩いた四つの季節を辿る夫。

果たして2人は再び巡り会えるのか。

また失われた「音」は取り戻すことは出来るのか。

そして盗まれたカバンの中身とは一体。

クリスマス・イブにお贈りする不思議な一夜のものがたり。

作・演出家からのメッセージ

長塚圭史

私の最初の劇体験は別役実氏の『雰囲気のある死体』であったように記憶しています。おそらく小学校3年生くらいだったのではないのでしょうか。私はこの時、内容への理解などを越えたところで、大人の世界を覗き見た喜びに酔いしれたのです。

子供向けの演劇を作ろうではないかという話になった時、これだけの才能を結集させたのは、子供向けだからと子供に寄り添うだけではない、まだ見てはならぬものを覗き込んでしまったような妖しい甘美もまた存分に味わって頂きたいものだと思っているからであります。圧倒的な感性で見つめる幼くも清き残酷な純粹の眼差しを演劇の力に変換し得るスリリングな劇体験を共有出来ればと思っております。

とにかく「なんだかすごい」からお父さんお母さんつれて劇場においでよ。

音のいない世界で

長塚圭史

Nagatsuka Keishi

1996年、演劇プロデュースユニット「阿佐ヶ谷スパイダース」を旗揚げ、作・演出・出演の三役をこなす。2004年『はたらくおとこ』の作・演出、『ヒーロマン』の演出で、第4回朝日舞台芸術賞と第55回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。05年『ラストショウ』の作・演出で第13回読売演劇大賞優秀作品賞、06年『ウィー・トーマス』再演の演出で第14回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。平成20年度文化庁新進芸術家海外留学制度にてロンドンに1年間留学し、09年9月に帰国。11年には新プロジェクト「葛河思潮社」を始動、1月に三好十郎作『浮標』を演出。近作にはサイモン・ステイーヴンス作『ハーバー・リーガン』の演出、ムロジェック作『タンゴ』の演出、井上ひさし作『十一ぴきのネコ』の演出、また阿佐ヶ谷スパイダース『荒野に立つ』の作・演出などがある。新国立劇場では06年に『アジアの女』を作・演出している。



長い墓標の列

Nagai Bohyouno Retsu

小劇場

●前売開始：2012年12月15日(土)

●料金 A：5,250円 B：3,150円

作： 福田善之

演出：宮田慶子

出演：村田雄浩 那須佐代子 石田圭祐 小田 豊

古河耕史 北川 響 遠山悠介 熊坂理恵子 ほか

企画意図

2005年に開設された新国立劇場演劇研修所。

現在7期生までが在籍、研修所修了生達はさまざまな公演に出演しています。

研修所の講師も務める宮田芸術監督は、ベテラン俳優達とともに修了生と、硬質な作品を制作するシリーズを企画しました。その第一弾として、福田善之の『長い墓標の列』をお届けします。

『長い墓標の列』は、東大経済学部の河合栄治郎事件をモデルに、1955年に早大劇研によって初演され、その後改訂版が58年にぶどうの会によって上演されています。60年安保闘争時の学生運動、政治運動の中での作家自身も投影されているような印象を与えます。

近年、『真田風雲録』や『袴垂れはどこだ』など、初期の福田作品の上演が見られますが、『長い墓標の列』も含め、どちらにも寄らない冷徹で、しかし熱い視点で描かれた群像劇は、この時代において改めて訴える力を持っているでしょう。

作 品

昭和13年秋、時代は軍部主導によるファシズムに傾倒し、大学自治も国家主義・全体主義の風潮の中、その自由を失おうとしていた。

経済学部教授の山名(純理派)は、自治を制限する文部省案を支持する革新派と、ただ一人教授会で戦っていた。弟子の助教授城崎、助手花里、今は新聞記者である千葉たちも教授会の行方を固唾をのんで見守っていた。

結果は山名の勝利に終わったが、勝利により逆に大学を追われる可能性、また身の危険を案じた千葉は、山名に転向することを勧めるが断られる。

政府は即座に山名の出版物を発禁処分とし、辞職させるようにしむける。学部長の村上は、逆説的ではあるが大学の自治を守るためにも自主退職してほしいと山名に頼むが、山名は自らの思想を裏切るとは人間存在に対する裏切りだと拒否する。

山名の休職発令を受けて、城崎、花里は一度は大学に辞表を提出したが、その後翻意して復職することを決める。弟子たちの裏切りに対し大きなショックを受ける山名。

昭和19年。激しい空襲警報の中、もはや浪人となった山名は狂気にとりつかれたように机に貼り付き研究している。情勢は山名の予想通り悪化の道をたどっていた。そこに、教授になった城崎があらわれ、花里が戦死したことを告げる。山名は薄れゆく意識の中で、最後まで城崎に自らの理想的自由主義的社会主義を反問しつづける……。

作家からのメッセージ

福田善之

私は高校中退の危機を、親しい先輩の河合武さんの家に居候になることで救われた。彼の父上が河合栄治郎教授で、河合事件、また東大経済学部事件といわれるものの主人公。終戦の前年に亡くなられているから、当然お目にかかったことはないが、私は居候生活を教授の著書に読みふけることから始めた。

数年のち、どうやら自分が芝居書きになりたいらしい、と思えはじめたとき、自然に河合家のことを考えた。まず、よく知っていることから書こう、河合家のことなら、私はそこに暮らしていたのだから。——1957年雑誌「新日本文学」に発表。早大劇研による初演は六時間かかった。このとき大隈講堂の廊下で、朝倉摂さんに初めて会った。

ごく近年になって、井上ひさしさんが、

「僕はずっと福田さんて、いい家に生まれた人だと思ってた」

と言ったのは、この『長い墓標』の印象からだったかもしれない。すると、あの作はまあ書けていた、ということになるのかなと、いまごろ思う。

演出家からのメッセージ

宮田慶子

『真田風雲録』『オッペケペ』『袴垂れはどこだ』など、福田善之氏の代表作に先立って1957年に発表されたのが、『長い墓標の列』です。この戯曲には、後年発表された作品に至る、いわばエッセンスが凝縮されていると言えます。思想的に急進性と力強さが明らかになっていったその後の作品の根底にある、究極の人間存在の証明としての「自由」と「知性」を訴える力が、作品全体を貫いています。国家、社会主義、知識階級、ジャーナリズムをめぐる痛烈で濃密な会話は、時代や社会状況を超えて今尚、興奮せずにはいられません。これ程の言葉達を、演劇の言葉として立ち上げる重責を、若き学者達、学生達の配役として、新国立劇場演劇研修所から巣立った、若い俳優達が担ってくれるのも、大きな魅力です。精神のエネルギーを清廉な世界に描き出したいと願っています。

長い墓標の列

福田善之

Fukuda Yoshiyuki

1931年東京生まれ。新聞記者、演出助手などを経て、劇団青年芸術劇場に参加。59年『長い墓標の列』が岸田國士戯曲賞佳作に選出。以後、『遠くまで行くんだ』『真田風雲録』『オッペケペ』『袴垂れはどこだ』などの秀作を発表し、注目される。

その後は、ミュージカルなどの劇作・演出家として幅広く活躍。ほかに、大河ドラマ『風と雲と虹と』など、映画シナリオやテレビ・ラジオドラマも執筆している。

93年『壁の中の妖精』『幻燈辻馬車』で、第28回紀伊國屋演劇賞、95年『私の下町—母の写真』で第46回読売文学賞、99年『壁の中の妖精』の演出で読売演劇賞優秀演出家賞、2000年『壁の中の妖精』の戯曲で齊田喬戯曲賞などを受賞。

1974年、中岡慎太郎を軸に高杉晋作、久坂玄瑞らを描いた歴史小説『草莽無頼なり』（乱雲篇）を発表。10年、颶風篇、光芒篇を書きついで朝日新聞出版より刊行。四十年の宿願を達した。11年の作・演出作品に『新訂ワーグナー家の女』（桐朋短大専攻科）、『夢、ハムレット ～陽炎編』（Pカンパニー）、『ねこのくにのおきやくさま』（こんにやく座、オペラ台本）、『一人芝居 草鞋をはいて』（京楽座）などがある。

01年紫綬褒章受章。現在、日本劇作家協会顧問、日本演出者協会評議員。



Photo by 姫田蘭



P2 参照。

宮田慶子

Miyata Keiko

With 一つながる演劇・ウェールズ編一

2013.4

「タイトル未定」

新作
New Play

A New Play by Gary Owen

小劇場

●前売開始：2013年2月24日(日)

作： ガラリー・オーウェン

翻訳：長島 確

演出：ジョン・E・マグラー

企画意図

海外の演劇人と新作を創っていこうという「With 一つながる演劇」シリーズの第一弾です。

2010年3月に1年目のシーズンが開幕した、世界で最も新しいナショナル・シアターである、ナショナル・シアター・ウェールズの初代芸術監督、ジョン・E・マグラーに演出を依頼、ウェールズを中心にイギリスで活躍している劇作家、ガラリー・オーウェンに書き下ろし新作を委嘱しました。

普遍的なテーマを探り、現代を独特の視点で描く世界初演の新作です。

作家からのメッセージ

ギャリー・オーウェン

今日、いったいいくつかの危機に直面しているのだろうか？クレジットカード地獄や借金地獄。燃料の使い過ぎが原因で起こる地球温暖化、燃料不足によるエネルギー問題。子どもの数が多過ぎて人口過多が問題の国もあれば、子どもの数が少な過ぎて問題になっている国もある。一時はテロの恐怖に怯えていたが、今はもうそんな心配はどこかにいってしまったようだ——とはいえ、まだまだ戦争を繰り返さなくてはならない。

演出家からのメッセージ

ジョン・E・マグラ

劇作家ギャリー・オーウェンと一緒に、新国立劇場における新しい企画に携われることをうれしく思っています。新国立劇場は、大きな規模で画期的な企画を次々と制作し、世界的にも重要な位置にある自主制作劇場です。ギャリーと私は、宮田慶子芸術監督と優秀な制作チームとともに仕事ができることを心から喜んでいます。この企画が新国立劇場とナショナル・シアター・ウェールズのこれからの長いお付き合いの第一歩になることを願っています。

「タイトル未定」

ギャリー・オーウェン

Gary Owen

ギャリー・オーウェンの戯曲には『クレイジー・ゲイリーのモバイル・ディスコ』『シャドウ・オブ・ア・ボーイ』をはじめ、2003年に世田谷パブリックシアターで日本初演をした『溺れた世界』がある。イギリスではジョージ・デヴァイン賞、メイヤー・ウィットワース賞、ピアソン最優秀演劇賞など数々の賞を受賞している。

昨年、ナショナル・シアター・ウェールズに『ラブ・スティール・アス・フロム・ロンリーネス』を書き下ろした。また、BBC ウェールズに『ベーカー・ボーイズ』というテレビ・シリーズの共作を手掛けている。

現在は、ナショナル・シアター・ウェールズとの更なる企画やナショナル・シアター・オブ・スコットランドに新作を書き下ろしている。



©Kirsten McTernan



©Warren Orchard National Theatre Wales

ジョン・E・マグラ

John E McGrath

ジョン・E・マグラは2009年11月5日に新たに発足したナショナル・シアター・ウェールズの創立者であり芸術監督として、10-11年の第1シーズンを終え、早くも、珍しい場所で意欲的な作品を上演するとの評判を確立した。1年目は、アラン・ハリス作『ア・グッド・ナイト・アウト・イン・ザ・パレー（谷間での楽しい夜）』とギャリー・オーウェン作『スティール・アス・フロム・ロンリーネス（愛は孤独を忘れさせる）』を演出した。また、全国13ヶ所で13作品を上演するという企画を陣頭指揮することによって、ウェールズに新しい「演劇地図」を作り上げた。12年には、ティム・プライス作『ラディカライゼーション・オブ・ブラッドリー・マニング』とケイト・オーライリー作『イン・ウォーター・アイム・ウェイトレス』を演出の予定。

それ以前はマンチェスター市のコンタクト劇場の芸術監督を務め、レン・シセイ作『ストーム・アンド・サムシング・ダーク』、ケイト・オーライリーとポール・クレイ共作『パーフェクト』、ジェフ・ヌーン作『サムウェア・ザ・シャドウ』をはじめ、多くの作品を演出した。彼の指揮のもとコンタクト劇場は、幅広い層の新人アーティストを大勢発掘し、また、青少年の国際的劇団のために「コンタクティング・ザ・ワールド」というフェスティバルを率先して行った。

ニューヨークで演劇を学び、当時マブー・マインズ（劇団）のアソシエート・ディレクターでもあった。オックスフォード大学、コロンビア大学並びにニューヨーク大学で学位を取得。

04年ルートレッジ社から著書『ラビング・ビッグ・ブラザー：パフォーマンス、プライバシー・アンド・サバイエンス・スペース』が出版されている。

05年には、NESTAカルチャー・リーダーシップ賞を受賞。

長島 確

Nagashima Kaku

ドラマトルク・翻訳家。立教大学フランス文学科卒。ピーター・ブルック作品の字幕操作を機に、戯曲の翻訳に取り組み始める。現在、日本でまだ少ないドラマトルクとして、コンセプトの立案から上演テキストの編集・構成まで、身体や声とともにあることばを幅広く扱う。ベケットやサラ・ケイン、ヨン・フォッセらの戯曲の翻訳のほか、さまざまな演出家や劇団の作品に参加。参加作品に『アトミック・サバイバー』『4.48サイコシス』『ヘッダ・ガーブレル』『長短調（または眺め身近め）』『ゆめみたい（2LP）』ほか多数。自身のプロジェクト「豊島区在住アトレウス家」を展開中。訳書にベケット『いざ最悪の方へ』。中野成樹＋フランケンズ所属。東京藝術大学、立教大学、京都造形芸術大学、日本大学芸術学部非常勤講師。



アジア温泉 (仮題)

新作
New Play

Asia Onsen (tentative title)

中劇場

●前売開始：2013年3月16日(土)

作： 鄭 義信

演出：孫 振策
ソン・ジンチュク

出演：日韓両国俳優

企画意図

海外の演劇人との交流を通して、日本を見つめる企画「With 一つながる演劇―」。第一弾のウェールズ編に続き、第二弾は韓国編となります。

新国立劇場では、2002年日韓ワールドカップの年に企画した『その河をこえて、五月』(作：平田オリザ・キム・金明和、演出：李炳焄・平田オリザ)、08年に上演した『焼肉ドラゴン』(作・演出：鄭義信)と、日韓の作家・演出家・俳優が交流する公演を制作してきました。国際交流そのものが第一の目的であったこれまでの公演とは違う作品内容のレベルが評価され、日韓両国の演劇賞を多数受賞いたしました。

今回の日韓合同公演は、シリーズ「With 一つながる演劇―」の中の一冊として、作家・鄭義信と演出家・孫振策を迎え、ダイナミックかつ演劇的な音楽入りの大人も子供も楽しめる祝祭劇です。

演出の孫振策は、ボーダーをテーマにしたアリエル・ドーフマン作『THE OTHER SIDE／線のむこう側』(04年、新国立劇場にて世界初演)を演出し、分断国家を経験している演出家として、硬質な世界観を見せてくれました。現在は、韓国国立劇団の代表兼芸術監督として、欧米だけでなく、中国をはじめとするアジアとの交流にも積極的な活動をしています。

彼が生み出したマダンノリスタイル(注)を進化させ、日韓両国の俳優が二か国語で、彼の得意とするアリーナスタイルの上演をめざします。

注：「マダン」は韓国語で、日常生活においてとても密接な場所あるいは広場を、「ノリ」は演劇(PLAY)を意味します。孫振策は、自身が主宰を務めていた劇団美醜で、韓国特有の生活慣習や考え方を、芝居を通じて観客に語りかけ、民族的精神を継承することに力を注いできました。農耕社会だった韓国では、古くから農村における仮面劇や人形劇など大衆的な娯楽が野外で行われていた風習があります。マダンノリはその風習に影響を受け、韓国の古典にその素材をとりながら今日の世相を随所に反映させ、諧謔や風刺を盛り込んだ大衆劇に再生させた新しいスタイルの演劇です。通常のプロセニウム舞台ではなく、観客に囲まれたアリーナステージで上演され、劇場にあるべき素朴な原風景が随所にみられる独特のスタイルを持っています。

作家からのメッセージ

鄭 義信

韓国済州島には死者の婚礼のための儀式があると聞いた。生きているうちに結ばれなかった恋人たちを黄泉の国から呼び戻し、婚礼をあげさせるのだ。話だけを聞くと、ずいぶんロマンティックである。しかし、わざわざ死んだものをよびつけ、婚礼をとりおこなうのは、よっぽどの理由があるのだろう（死者もずいぶんと迷惑にちがいない……）。

しかし、それはきっと死者のための儀式ではなく、生きているものたちのための儀式であると、僕は思うのだ。生きているものたちの愛憎やら、後悔やら、悔恨やら……どうしようもなくどろどろに詰まったものたちを洗い流すために、その儀式はきっと執り行われるのだろう。

「祝祭劇をやりたい」と、孫先生からお話があった時、僕はいちばんに済州島のその儀式のことを思い出した。演劇は死者のために供されるものではない。そして、個に向かってだけ発信されるものでもない。生きているものたちの悲しみ、苦しみを解きほぐし、寿ぐためにこそ演劇はあり、今こそ、その根源的な力が必要だと、僕は思っている。

演出家からのメッセージ

孫 振策

今回の『アジア温泉』は、オープンスタイルの舞台で成り立つだろうと思っています。

日本の観客のみならず、少し馴染みのない形態の演劇かもしれませんが、舞台と客席が一体化し、双方向でコミュニケーションが交わされるので、より演劇を楽しむことができるでしょう。

そして、単純にただ両国に限定された話ではなく、この作品を通じて、濃い人間と社会の姿を描きたいと思っています。

アジア温泉(仮題)

鄭 義信

Chong Wishing

1993年に『ザ・寺山』で第38回岸田國士戯曲賞を受賞。その一方、映画に進出して、同年『月はどっちに出ている』の脚本で、毎日映画コンクール脚本賞、キネマ旬報脚本賞などを受賞。98年には、『愛を乞うひと』でキネマ旬報脚本賞、日本アカデミー賞最優秀脚本賞、第一回菊島隆三賞、アジア太平洋映画祭最優秀脚本賞など数々の賞を受賞した。さらに平成13年度芸術祭賞大賞を受賞した『僕はあした十八になる』(01/NHK)などテレビ・ラジオのシナリオでも活躍する一方、エッセイ集『アンドレアスの帽子』なども出版。現在も、文学座、こんにゃく座ほかに戯曲を提供する傍ら、自身も作・演出を努めるユニット〈海のサーカス〉に参加している。2007年10月には新国立劇場『たとえば野に咲く花のように ―アンドロマケ―』の脚本を手がけた。そして08年の新国立劇場『焼肉ドラゴン』では、第16回読売演劇大賞優秀演出家賞、第12回鶴屋南北戯曲賞、第43回紀伊國屋演劇賞個人賞、第59回芸術選奨文部科学大臣賞をそれぞれ受賞。10年は初めて翻訳劇の演出に取り組んだ、あうるすぽっと『Duet For One』がある。



孫 振策

Sohn Jin Chack

1947年生まれ。韓国の伝統芸能の手法を現代劇創作に生かした演出家として国内外で知られる。ソラボル芸術大学で演劇を専攻後、劇団民芸の旗揚げに参加し、84年『ソウル・マルトウギ』で演出家デビュー。82年にはロイヤル・シェイクスピア・カンパニーで1年間研修。86年には自身の劇団美醜を旗揚げし、数々の作品を演出する。そのほか、88年ソウル・オリンピック文化芸術祝典「漢江祭」総監督、2002年日韓共催ワールドカップ開幕式総合演出など、国家的なイベントも手がける。また、演出家としてだけでなく、フェスティバル・ディレクターとしての才能も発揮し、各種舞台芸術フェスティバルの芸術監督も務める。新国立劇場では、04年に『THE OTHER SIDE / 線のむこう側』を演出。現在、財団法人国立劇団代表・芸術監督。

With 一つながる演劇・ドイツ編—

2013.6

「タイトル未定」

新作
New Play

A New Play by Roland Schimmelpfennig

小劇場

●前売開始：2013年4月20日(土)

作： ローラント・シンメルプフェニヒ

翻訳：大塚 直

演出：宮田慶子

企画意図

「With 一つながる演劇—」シリーズ三本目は、現代ドイツ演劇界の指導的立場にある劇作家と称される、ローラント・シンメルプフェニヒ氏に新作の書き下ろしを委嘱、「つながる演劇・ドイツ編」としてお送りします。

2008年『昔の女』上演に際し初来日したシンメルプフェニヒ氏が、当時自ら歩き回って感じた「東京」或いは「日本」、そして2011年3月以降の、外から見える「日本」を通して、「今この瞬間から、私たちはどう生きて行くのか」を独自の視点と手法で描く、刺激的な新作です。初めて氏の新作がドイツ語圏以外の国で初演されることも注目です。

作家からのメッセージ

ローラント・シンメルプフェニヒ

ツナミや現代社会がもたらした事故で多くの命を失った、フクシマのような大きな出来事を経験した日本の人々に向けて、どんな形態のアートでその意味を表現できるのか……それはとても大きなチャレンジだ。

あの事故は、人類が原子力という獣を手なずけることなんか出来ないんだ、ということを我々に見せつけ、エネルギーというものに対する概念を——少なくともドイツにおいては——すべて覆した。

フクシマは日本だけの問題ではない。全世界に向けて疑問を投げかけた。

芝居の冒頭部分はおそらく、私的な生活が、とても軽く、おかしく、楽しいブルバールの的に描かれる。

それから大きな何かが起こる。あくまでもプライベートな事件に振り回されていた生活が、とてつもなく大きな問題に直面することになる。

エンターテインメントを通して、フクシマやハリスバーグ（スリーマイル島）、チェルノブイリなどで起きたこと、その意味を本質的に問いかけるように、観客を誘いたい。

演出家からのメッセージ

宮田慶子

ジャーナリスト出身でもあるシンメルプフェニヒ氏の作品は、ロマン主義の感覚を持ちながらも、時には冷酷なほど冷静です。2009年に上演された『昔の女』でも、“反古にされた約束の話”という明快なコンセプトのもとに、それぞれの登場人物を、共感させ過ぎることなく、少し突き放すように描いています。それが実に現代的なリアリティを生んでいます。次の時代に向かって、有効なコミュニケーションとは何なのか……。そんなことを、共に (with) 考える企画にしたいと思っています。

「タイトル未定」

ローラント・シンメルプフェニヒ

Roland Schimmelpfennig

1967年、西ドイツ・ゲッティンゲン生まれ。高校卒業後、ジャーナリストとしてトルコのイスタンブールに滞在後、ミュンヘンのオットー・ファルケンベルク演劇学校で演出を学び、ミュンヘン市立劇場にて演出助手／共同制作者として演劇活動始める。96年にフリーの劇作家となり、2000年からハンブルク、ウィーン、チューリッヒ、ベルリンなどドイツ語圏の主要な劇場から執筆依頼を受けて、ロマン主義の感覚や映像メディアの手法を持ち込んだ斬新な演劇テキストをほぼ毎年のように提供、ドイツでは現在最も上演回数の多い現代劇作家となっている。

これまでの主な戯曲に『永遠のマリア』『春物の服を着た若い女性に仕事はない』『町から森へ、森から町へ』『五月の長い時を前に』『アラビアの夜』『前と後』『昔の女』『グライフスヴァルト通りにて』『イドメネウス』など。



©Justine del Corte

大塚 直

Otsuka Sunao

1971年広島県生まれ。慶応義塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得後、ドイツ・コンスタンツ大学に留学。東京外国語大学大学院地域文化研究科にて、劇作家ボートー・シュトラウスに関する研究で博士号取得。学術博士。現在は愛知県立芸術大学音楽学部准教授。早稲田大学演劇博物館グローバルCOE学外研究協力者。専門は近現代ドイツ語圏の演劇・文化史。共著に、『メディア論 ―現代ドイツにおける知のパラダイム・シフト』、『演劇インタラクティヴ ―日本×ドイツ』、訳書に、ローラント・シンメルプフェニヒ『前と後』、ゴリーキー『避暑に訪れた人びと ―ベルリン・シャウビューネ改訂版』など。論文に、『若きボートー・シュトラウスと来たるべき演劇のプログラム』、『寺山修司のドイツ体験』、『ローラント・シンメルプフェニヒの「語りの演劇」』などがある。

新国立劇場では2008/2009シーズンのシリーズ・同時代〔海外編〕Vol.1『昔の女』（作：ローラント・シンメルプフェニヒ、演出：倉持裕）の翻訳を手掛けている。



宮田慶子

Miyata Keiko

P2参照。



象

2013.7

再 演

Original Production 2010

Zou

小劇場

●前売開始：2013年5月11日(土)

作： 別役 実

演出：深津篤史

出演：大杉 漣 奥菜 恵 羽場裕一 山西 惇 神野三鈴 ほか

企画意図

2010年3月に上演され、その斬新な演出と独特な世界観が大きな反響を呼んだ、別役実初期の代表作『象』を再演します。

原爆で背中に負ったケロイドを町中で見せびらかし、人々から拍手喝采を得たいと奇妙な情熱を抱く病人。彼を引き止め、人々はもう我々被爆者を愛しも憎しみも嫌がりもしないんだ、とめどなく優しいだけなんだ、だからひっそり我慢することしかしてはいけないと説得する男。二人の心の行き違いを軸に被爆者の陥った閉塞状況を描き、さらには被爆者の苦悩を通して、人間社会全体の抱える存在の不安を静けさの張りつめた筆致で鋭く突いた『象』は、1962年の初演時、日本演劇界に衝撃を与えました。今回も深津篤史演出により、さらに練りこまれた舞台を創り上げます。

東京公演後には全国公演も予定しています。



2010年公演より

作 品

入院中の「病人」をその甥である「男」が訪ねてくる。

「病人」は広島への原子爆弾による被爆者で街頭で裸になって背中のケロイドを見せ喝采を浴びていたが、既に病状が悪化し今は入院をしているようだ。二人の会話から「男」も被爆者であることが明らかになる。

男：静かに死んでしまいたいとは思いませんか？

病人：思わないね。俺はむしろ、死ぬ前に殺されたいと思っている。

男：何故？

病人：知らん。情熱的に生きたいのさ。

「病人」はまた元気になってあの町でケロイドを見せたいと願っているが、「男」は静かにそのときを待つべきだと主張する。二人の生き方の違いを主軸に据えながら、「病人の妻」、「医者」、「看護婦」など二人を取りまく様々な人々の姿から、原爆病者の抱える問題、それを取りまく世の中の問題が垣間見えてくる。

そして遂に「男」も発病し、「病人」の隣のベッドへと入院することとなる。

あくまでも行動的な「病人」とは対照的に静かに死を迎えたいと願う「男」。

ある雨の日、ついに「病人」はあの町へ出かけることを決意するのだが……。

演出家からのメッセージ

深津篤史

古い、戦国時代だかの絵で見ると、象はあまり可愛くない。誇張された怪物的な表現という訳でもなく、結構写実的で、恐らく長旅の疲れからか痩せていて、そのぶん皺が際立ち可愛げがない。何というか、私たちの知る象にまつわる物語性がない。知性や、品性や、情感といった何かが。

さて、『象』が再演の運びとなった。嬉しい。たぶん、気をつけなくちゃいけないのはこういう事ではないかしらと思う。私たちは『象』という物語と、それを舞台として作りあげた私たちの物語を既に持っている。棄てる必要はないだろうが、甘い気持ちで振り返って出来るものではない。日本人の目に映った象は当初ひどく陰しく、愛嬌のかけらもなかった。何故、そう映ったかも含めて再演に取り組む姿勢としたい。

象

別役 実

Betsuyaku Minoru

1937年、旧満州（現、中国東北部）生まれ。劇作家、小説家、エッセイスト。日本の不条理演劇を確立した第一人者。早稲田大学政治経済学部政治学科に入学、ベケットらの不条理劇に影響を受け、鈴木忠志らと劇団「自由舞台」（後の早稲田小劇場）を創設。その旗揚げ公演であった戯曲『象』（62年）で注目され、『マッチ売りの少女』（66年）と『赤い鳥の居る風景』（67年）で67年第13回〈新劇〉岸田國士戯曲賞を受賞。68年に早稲田小劇場を離れてからは、俳小、演劇集団円、木山事務所、俳優座、文学座アトリエなどに次々と戯曲を提供。72年に山崎正和、末木利文らと「手の会」を結成。71年『街と飛行船』『不思議の国のアリス』で紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。同年『そよそよ族の叛乱』で芸術選奨新人賞、87年に戯曲集『諸国を遍歴する二人の騎士の物語』で読売文学賞、88年『ジョバンニの父への旅』で芸術選奨文部大臣賞を受賞。98年には毎日芸術賞特別賞など受賞歴多数。2007年、劇作130本を達成する。戯曲や童話の他に、生物学の常識を覆す奇書のふりをしたジョークエッセイ『虫づくし』をはじめ、日本古来、および現代の妖怪の生態を解説した『もののけづくし』や、『けものづくし』『鳥づくし』『魚づくし』など「〜づくし」シリーズは、ナンセンス作家としての著者を一躍有名にした。また衝撃的な事件の闇に包まれたメカニズムを鋭敏な目で分析した犯罪エッセイ、「犯罪症候群」などの独創的な論考も発表しており、その関心は森羅万象に及ぶ。



深津篤史

Fukatsu Shigefumi

関西で活躍する劇団桃園会主宰。劇作家・演出家・劇団プロデューサー。NPO 大阪現代舞台芸術協会理事長。1967年生まれ。同志社大学院文学研究科修士課程修了。主な作品に『うちやまつり』（第42回岸田國士戯曲賞受賞）、『のたり、のたり』『よぶには、とおい』『熱帯夜』『paradise lost, lost』など。飛田演劇賞快挙賞、兵庫県芸術奨励賞、大阪咲くやこの花賞などのほか、新国立劇場『動員挿話』で第13回読売演劇大賞優秀演出家賞、作品賞を受賞。新国立劇場では、ほかに『近代能楽集 弱法師』『象』を演出し、この6月には、ハロルド・ピンター作『温室』の演出が控えている。

PLAY

公演一覧

開場記念公演～2011/2012シーズン

★＝新作

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
開場記念公演	紙屋町さくらホテル★	井上ひさし		渡辺浩子	97.10/22
	[蒲田行進曲完結編] 銀ちゃんが逝く	つかこうへい		つかこうへい	97.11/13
	夜明け前	原作 島崎藤村	脚色 村山知義 補訂脚本 津上 忠	木村光一	97.12/4
	リア王	ウィリアム・シェイクスピア	松岡和子	鶴山 仁	98.1/17
1998/ 1999	虹を渡る女★	岩松 了		岩松 了	98.5/7
	幽霊はここにいる	安部公房		串田和美	98.5/12
	今宵かざりは…★ 1928 超巴里井主義宣言の夜	竹内統一郎		栗山民也	98.6/12
	音楽劇 ブッダ★	原作 手塚治虫	脚本 佐藤 信	栗山民也	98.9/7
	THE PIT フェスティバル				
	カストリ・エレジー スタインベック「二十日鼠と人間」より	脚本 鐘下辰男		鐘下辰男	98.10/3
	神々の国の首都	坂手洋二		坂手洋二	98.10/17
	寿歌	北村 想		北村 想	98.10/29
	ディア・ライアー すてきな嘘つき	ジェローム・キルティ	丹野郁弓	宮田慶子	98.11/4
	野望と夏草	山崎正和		西川信廣	98.12/2
	新・雨月物語★	脚本 鐘下辰男		鶴山 仁	99.1/11
	子午線の祀り	木下順二	演出 観世栄夫／内山 鶴 酒井 誠／高瀬精一郎		99.2/3
	セツァンの善人	ヘルトルト・ブレヒト	松岡和子	串田和美	99.5/18
	羅生門	原作 芥川龍之介		構成・演出 渡辺和子	99.6/4
	棋人 ―チャーレンス―	過 士行	菱沼彬晃	林 兆華	99.7/1
1999/ 2000	キーン 或いは狂気と天才	J.P.サルトル 上演台本 栗山民也／江守 徹	鈴木力衛	栗山民也	99.10/4
	美しきものの伝説	宮本 研		木村光一	99.11/4
	―森本薫の世界―				
	かくて新年は	森本 薫		宮田慶子	99.12/8
	怒濤	森本 薫		マキノノゾミ	00.1/11
	華々しき一族	森本 薫		鐘下辰男	00.2/9
	新・地獄変★	原作 芥川龍之介	脚本 鐘下辰男	鶴山 仁	00.3/23
	なよたけ	加藤道夫		木村光一	00.4/11
	夜への長い旅路	ユージン・オニール	沼澤治治	栗山民也	00.5/11
2000/ 2001	マクベス	ウィリアム・シェイクスピア	福田恒存翻訳より 潤色 鐘下辰男	鐘下辰男	00.9/8
	ブロードウェイ・ミュージカル 太平洋序曲	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジョン・ワイドマン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	00.10/2
	欲望という名の電車	テネシー・ウィリアムズ	鳴海四郎	栗山民也	00.10/20
	シリーズ「時代と記憶」				
	memorandum メモランダム★	構想・構成 ダムタイプ			00.11/27
	母たちの国へ★	松田正隆		西川信廣	01.1/10
	ピカドン・キジムナー★	坂手洋二		栗山民也	01.2/10
	こんにちは、母さん★	永井 愛		永井 愛	01.3/12
	夢の裂け目★	井上ひさし		栗山民也	01.5/8
	紙屋町さくらホテル	井上ひさし		渡辺浩子／井上ひさし	01.4/4
	廣作・桜の森の満開の下	野田秀樹		野田秀樹	01.6/1

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2001/ 2002	海外招待作品 Vol.1 太陽劇団 堤防の上の鼓手	エレヌ・シクスー	字幕翻訳 松本伊瑳子	アリアヌ・ムヌーシュキン	01.9/7
	コペンハーゲン	マイケル・フレイン	平川大作	鶴山 仁	01.10/29
	美女で野獣*	荻野アンナ		宮田慶子	01.12/10
	シリーズ チェーホフ・魂の仕事				
	Vol.1 かもめ	アントン・チェーホフ	英訳 マイケル・フレイン 翻訳 小田島雄志	マキノノゾミ	02.1/11
	Vol.2 くしゃみ/the Sneeze	アントン・チェーホフ	台本 マイケル・フレイン 翻訳 小田島恒志	熊倉一雄	02.2/28
	Vol.3 「三人姉妹」を追放されし トゥーゼンバフの物語 *	岩松 了		岩松 了	02.4/1
	Vol.4 ワーニャおじさん 四幕の田園生活劇	アントン・チェーホフ	小野理子	栗山民也	02.5/9
	Vol.5 櫻の園	アントン・チェーホフ	潤色 堀越 真(神西清翻訳による)	栗山民也	02.6/21
	その河をこえて、五月*	平田オリザ／金 明和		李 炳焄／平田オリザ	02.6/3
2002/ 2003	海外招待作品 Vol.2 国際チェーホフ演劇祭 in モスクワ ハムレット	ウィリアム・シェイクスピア		ペーター・シュタイン	02.9/7
	ブロードウェイ・ミュージカル 太平洋序曲	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジョン・ワイドマン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	02.10/11
	メ ヤジルシ ―誘われて*	太田省吾		太田省吾	02.11/12
	シリーズ「現在へ、日本の劇」				
	①ピルグリム	鴻上尚史		鴻上尚史	03.1/14
	②浮標	三好十郎		栗山民也	03.2/19
	③マッチ売りの少女	別役 実		坂手洋二	03.4/8
	④サド侯爵夫人	三島由紀夫		鐘下辰男	03.5/26
	涙の谷、銀河の丘 *	松田正隆		栗山民也	03.5/13
	ゴロヴリョフ家の人々 *	原作 サルティコフ・シチェドリン	翻訳 湯淺芳子 脚本 永井 愛	永井 愛	03.6/18
2003/ 2004	nocturne ―月下の歩行者 *	構成 松本雄吉		松本雄吉	03.9/8
	夢の泪 *	井上ひさし		栗山民也	03.10/9
	世阿彌	山崎正和		栗山民也	03.11/27
	シリーズ「女と男の風景」				
	①海外招待作品 Vol.3 香港・劇場組合 The Game / ザ・ゲーム	ウジェーヌ・イヨネスコの悲喜劇「椅子」より 翻案 ジム・チム／オリヴィア・ヤン	字幕 角田美知代	ジム・チム／オリヴィア・ヤン	04.2/20
	② THE OTHER SIDE ／線のむこう側 *	アリエル・ドーフマン	水谷八也	孫 振策	04.4/12
	③てのひらのこびと *	鈴江俊郎		松本祐子	04.5/11
	④請願 静かな叫び	ブライアン・クラーク	吉原豊司	木村光一	04.6/22
	こんにちは、母さん	永井 愛		永井 愛	04.3/10
	透明人間の蒸気	野田秀樹		野田秀樹	04.3/17
	ブロードウェイ・ミュージカル INTO THE WOODS	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェイムズ・ラパイン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	04.6/9

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2004/ 2005	* 胎内	三好十郎		栗山民也	04.10/4
	* ヒトノカケラ*	篠原久美子		宮崎真子	04.10/22
	* 二人の女兵士の物語 *	坂手洋二		坂手洋二	04.11/8
	喪服の似合うエレクトラ	ユージン・オニール	沼澤洽治	栗山民也	04.11/16
	城 *	原作 フランツ・カフカ	構成 松本 修	松本 修	05.1/14
	シリーズ 笑い				
	①花咲く港	菊田一夫		鶴山 仁	05.3/14
	②コミュニケーションズ *	作 綾田俊樹／いとうせいこう／ケラリーノ・サンドロヴィッチ／杉浦久幸 現代劇作家によるコト集	高橋徹郎／竹内 佑／鄭 義信／土田英生／別役 実／ふじきみつ彦／武藤真弓 原作使用 筒井康隆	構成・演出 渡辺えり子	05.4/8
	③箱根強羅ホテル *	井上ひさし		栗山民也	05.5/19
	④うら騒ぎ ノイズ・オフ	マイケル・フレイン	小田島恒志	白井 晃	05.6/27
2005/ 2006	その河をこえて、五月	平田オリザ／金 明和		李 炳熹／平田オリザ	05.5/13
	海外招待作品 Vol.4 ベルリナー・アンサンブル アルトウロ・ウイの興隆	ベルトルト・ブレヒト	イヤホンガイド翻訳 新野守広	ハイナー・ミュラー	05.6/22
	* 黒いチューリップ／盲導犬	唐 十郎		中野敦之	05.9/27
	* 屋上庭園／動員挿話	岸田國士		宮田慶子〈屋上庭園〉 深津篤史〈動員挿話〉	05.10/31
	母・肝っ玉とその子供たち —三十年代戦争年代記	ベルトルト・ブレヒト	谷川道子	栗山民也	05.11/28
	ガラスの動物園	テネシー・ウィリアムズ	小田島雄志	イリーナ・ブルック	06.2/9
	十二夜	ウィリアム・シェイクスピア	脚本 山崎清介 小田島雄志翻訳による	山崎清介	06.3/7
	シリーズ「われわれは、どこへいくのか」				
	①カエル *	過 士行	菱沼彬晃	鶴山 仁	06.4/1
	*②マテリアル・ママ *	岩松 了		岩松 了	06.4/19
2006/ 2007	③やわらかい服を着て *	永井 愛		永井 愛	06.5/22
	④夢の痾 *	井上ひさし		栗山民也	06.6/28
	ブロードウェイ・ミュージカル Into the Woods	作曲・作詞 スティーブン・ソンドハイム 台本 ジェイムズ・ラバイン	翻訳・訳詞 橋本邦彦	演出・振付 宮本亜門	06.5/19
	アジアの女 *	長塚圭史		長塚圭史	06.9/28
	「劇的な情念をめぐって」—世界の名作より—				
	シラノ・ド・ベルジュラック	原作 エドモン・ロスタン	翻訳 辰野 隆／ 鈴木信太郎	構成・演出 鈴木忠志	06.11/2
	イワーノフ／ オイディプス王	原作 アントン・チェーホフ 原作 ソフォクレス	翻訳 池田健太郎 日本語 福田恒存 ドイツ語 ヘルダーリン	構成・演出 鈴木忠志	06.11/4
	* エンジョイ *	岡田利規		岡田利規	06.12/7
	コペンハーゲン	マイケル・フレイン	平川大作	鶴山 仁	07.3/1
	CLEANSKINS／きれいな肌 *	シャン・カーン	小田島恒志	栗山民也	07.4/18
2007	下周村 —花に嵐のたえもあるさ— *	平田オリザ／李 六乙		李 六乙／平田オリザ	07.5/15
	夏の夜の夢	ウィリアム・シェイクスピア	松岡和子	ジョン・ケアード	07.5/31
	氷屋来たる	ユージン・オニール	沼澤洽治	栗山民也	07.6/18

* =THE LOFT 公演

シーズン	演目	作	訳・脚色	演出	公演初日
2007/ 2008	「三つの悲劇」—ギリシャから				
	Vol.1 アルゴス坂の白い家★ —クリュタイムストラ—	川村 毅		鶴山 仁	07.9/20
	Vol.2 たとえば野に咲く花のように★ —アンドロマケ—	鄭 義信		鈴木裕美	07.10/17
	Vol.3 異人の唄★ —アンティゴネ—	土田世紀	脚色 鐘下辰男	鐘下辰男	07.11/14
	屋上庭園／動員挿話	岸田國士		宮田慶子〈屋上庭園〉 深津篤史〈動員挿話〉	08.2/26
	焼肉ドラゴン★	鄭 義信		梁 正雄／鄭 義信	08.4/17
	オットーと呼ばれる日本人	木下順二		鶴山 仁	08.5/27
	シリーズ・同時代				
	Vol.1 鳥瞰図 —ちようかんず—★	早船 聡		松本祐子	08.6/11
	Vol.2 混じりあうこと、消えること★	前田司郎		白井 晃	08.6/27
	Vol.3 まほろば★	蓬萊竜太		栗山民也	08.7/14
2008/ 2009	近代能楽集『綾の鼓』『弱法師』	三島由紀夫		前田司郎綾の鼓 深津篤史弱法師	08.9/25
	山の巨人たち	ルイジ・ピランデルロ	翻訳 田之倉稔	ジョルジュ・ラヴォーダン	08.10/23
	舞台は夢—イリュージョン・コミック—	ビエール・コルネイユ	翻訳 伊藤 洋	鶴山 仁	08.12/3
	シリーズ・同時代【海外編】				
	Vol.1 昔の女	ローラント・シンメルプフェニヒ	翻訳 大塚 直	倉持 裕	09.3/12
	Vol.2 シュート・ザ・クロウ	オーウェン・マカファーティ	翻訳 浦辺千鶴／小田島恒志	田村孝裕	09.4/10
	Vol.3 タトゥー	デーア・ローアー	翻訳 三輪玲子	岡田利規	09.5/15
	夏の夜の夢	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 松岡和子	ジョン・ケアード	09.5/29
	現代能楽集 鶴★	坂手洋二		鶴山 仁	09.7/2
	ヘンリー六世	ウィリアム・シェイクスピア	翻訳 小田島雄志	鶴山 仁	
	第一部 百年戦争				09.10/27
	第二部 敗北と混乱				09.10/28
2009/ 2010	第三部 薔薇戦争				09.10/29
	象	別役 実		深津篤史	10.3/5
	東京裁判三部作	井上ひさし		栗山民也	
	夢の裂け目				10.4/4
	夢の泪				10.5/6
	夢の痂 かさよけ				10.6/3
	エネミイ★	蓬萊竜太		鈴木裕美	10.7/1
2010/ 2011	【JAPAN MEETS… —現代劇の系譜をひもとく—】				
	I ヘッダ・ガーブレル	ヘンリック・イブセン	翻訳 アンネ・ランデ・ペータス 長島 確	宮田慶子	10.9/17
	II やけたトタン屋根の上の猫	テネシー・ウィリアムズ	翻訳 常田景子	松本祐子	10.11/9
	III わが町	ゾートン・ワイルダー	翻訳 水谷八也	宮田慶子	11.1/13
	IV ゴドーを待ちながら	サミュエル・ベケット	翻訳 岩切正一郎	森新太郎	11.4/15
	焼肉ドラゴン	鄭 義信	翻訳 川原賢柱	鄭 義信	11.2/7
	鳥瞰図 —ちようかんず—	早船 聡		松本祐子	11.5/10
	雨	井上ひさし		栗山民也	11.6/9
	おどくみ★	青木 豪		宮田慶子	11.6/27
2011/ 2012	【美×劇】 —滅びゆくものに託した美意識—				
	I 朱雀家の滅亡	三島由紀夫		宮田慶子	11.9/20
	II イロアセル★	倉持 裕		鶴山 仁	11.10/18
	III 天守物語	泉 鏡花		白井 晃	11.11/5
	バーマ屋スミレ★	鄭 義信		鄭 義信	12.3/5
	まほろば	蓬萊竜太		栗山民也	12.4/2
	負傷者16人—SIXTEEN WOUNDED—	エリウム・クライエム	翻訳 常田景子	宮田慶子	12.4/23
	【JAPAN MEETS… —現代劇の系譜をひもとく—】				
	V サロメ	オスカー・ワイルド	翻訳 平野啓一郎	宮本亜門	12.5/31
	VI 温室	ハロルド・ピンター	翻訳 喜志哲雄	深津篤史	12.6/26

Memo
